

長崎めぐり「わたしの好きな長崎の神々」

嬉野 純一

其の一 平成二十九年一月二十一日(土) 天気晴。

阿弥陀橋を一時五分出発。男九名、女九名、同行・毎日新聞社今野記者。八幡町カトリック教会を左に見て、八幡座跡。次に宮地嶽八幡神社に行き長崎唯一の陶製鳥居の下を通り神社に参拝。右手のゆるやかな坂を上る、坂の上に若宮神社の一ノ鳥居跡記念碑あり。三ヶ月地藏堂の前を通り、日本最初の西洋料理店と言われる「自由亭跡」を見学。右手にある若宮の大鳥居を通り、天に至るような急な石段と其の石段にいくつも続く鳥居をくぐり上り始める。ハンディは無いので84才の方も26才の人達と共に足をふみしめヨイショ・ヨイショと声をかけながら若宮神社を目指す。清澄な空気の中で神社に参拝。腰を据え、どこから「竹ん芸」を見るのが良いかを説明。同行の江浦長則氏に若宮川に架かる石橋の説明を聞く。「坂本龍馬も此の近くの亀山社中にいたので、勤皇の志士を引きつれて若宮様にお参りにきたであろう」と言われる。川を遡ると森の中に古来からの御狐様が鎮座しておられるそうです。お狐様は「若宮様のおつかい」であられるそうです。



寄合町の守護神玉泉神社

其の時、偶然に宮司さんが帰ってこられた。早速お話をきくと「この神社は南北朝時代から勤皇だったので、亀山社中の人達(坂本龍馬他)がよく参詣にこられていた……」そうである。亀山社中の跡を訪れ、乳薬師様の前を通り光源寺に下る。本堂では法事が営まれていた。部員の坂本博文氏の案内で寺の後の「光源寺ユールン赤子塚」に行く。「この塚は飴屋のユールン(幽霊)の物語に感動した人達がお地藏様を造り、御祀りした処」だそうです。

の手厚い保護が身にしみて感じられた。

梅園の参道を下ると右手に長崎検番がある。盛塩もりしおがあり硝子戸を開けると更にその奥にも硝子戸があった。大きな声で見学の許可を請う。「どうぞ」との事。恐縮しながらゾロゾロ、キョロキョロと見せてもらう。愛八さんの写真と三味線が多おんくさん並んでいた。部員の岩永早百合女子は、「愛八さんの縁者」との事、大よろこびだった。

次に、花月の門前に集る。向井去来の句碑を拝見。下って福砂屋ギヤマン展示場を見学させて戴く。有名なビードロ細工がさりげなく置いてあり感激。同行の白水氏がカステラを購入、同店総務課長玉藤さんより全員に絵葉書を頂戴し厚く御礼を述べて帰る。

横の「御幸坂」をのぼり楠神社の巨木をみて、旧大徳寺・梅ヶ崎天満宮に行く、白水氏の御厚意で本籠町龍踊倉庫を開けて戴き諸道具・龍頭の説明をきく。太鼓は牛皮を使用するが近年は牛を農耕に使わないのでモヤシ牛の皮を使うので、あまり「もてない」との事。境内の茶店菊水にて名物の「梅ヶ枝餅」をいただく。参道を下り銅座川に出て昔の道を通り日ノ浦神社の鳥居を見学し一同解散。

其の三 三月十八日(土) 曇。男七名、女六名、先行三名。長崎バス岬木場行にて新地十一時発乗車。

野母崎観音寺前下車。参道の「お地藏様」に手を合わせ、本堂前にて松原図書館の方が持参して下さった豪華な弁当を戴く。里芋の煮付、高野豆腐、昆布まき、茄子煮しめ、甘鯛テンプラ等々。これに「お酒」があれば本場の観音講でした。問もなく島内孝宣住職が来られ、一時より読経はじまる。般若心経から始まり大太鼓、中太鼓、鈴に鉦、やがて梵唄と仏教音楽を有難くお聞きした。私は文化財の天井絵をながめた。石崎融思・川原慶賀の面絵だと御聞きした。色があせていたのは残念だった。お経は進み南無釈迦牟尼仏となえられ御経本を立ってパラパラと開かれた。千手観音様の光をおがませて戴いた。やがて御詠歌 良く響く良いお声だった。参拝者の名を読みあげて下さった。数珠をまさぐり家内安全、身体強健を御願いした。

御本寺の御本尊十一面観世音菩薩は平安時代の造立で国指定重要文化財であると御聞きした。山門、仁王門は朽ちて無くなり現在は其の柱の穴が「栄華の夢のあと

寺を出て寺町に下り唐寺興福寺(文化財)に参拝。下の坂をくだって「ユールン井戸」の跡をみて皓台寺を目指す。皓台寺到着、山門から一直線の大仏殿には長崎第一の毘盧舎那仏(大仏様)が有難い御姿で鎮座まします。参拝を終え本堂に行く。私達が長い間、車座になり話しあっていたので修行僧が不審に思い時々のぞきに来られた。

寺を出て榎津町に下りシトキ川に行つた。何故この名前になったのか「昔、このあたりは歌舞伎町と言ひ歌舞の町であったので、太鼓の皮に鹿の皮を使った故に鹿解川となつた」と言う。

川岸に、万屋町に行く井戸があり「万井」とあった。この井戸の水を「今でも手おしポンプで使用しています」と野菜屋の堀端さんが言われる。シトキ川は其処から暗渠になつていた。其の故に此のあたりは少しの雨でも、満潮の時には水があふれ出るそうだ。傍に唐子地藏があり、アーケードを通られる人を見守っておられる。私達も参拝し、最後に寺子屋メンバーの「秋月園浜の町アーケード店」で「お茶とお菓子」を頂いて解散した。

其の二 二月十八日午後一時五分、丸山公園龍馬像前出発。

天気晴れ風冷たい。男六名、女七名。

寄合町旧遊廓三島屋を見学。現在は「女性専用の間貸し」をされているとの事。終戦直後このあたりに多く出入りしていた進駐軍の話聞く。同行の花園保育園の高比良英子女子は顔を歪めておられた。

玉泉神社では美しい梅が私達を迎えて下さった。この神社は明治以前は天台宗の寺院で其の当時の見事な造作に一同目を見張らされた。次いで梅園天満宮に、ぶらぶら節で「梅園うら門たたいて丸山ブウラブラ……」とは此処が出発地だそうだ。梅の香に満ちており、「御神牛」と歯痛おさめの狛犬の石像を一同なでさすっていた。境内の整備に丸山町

が今も残っています」とのことでした。

寺の参拝を終え、脇岬海水浴場に行きカフェ・キラクに行つた。ママさんが「この浜には海亀が産卵し、其れをねらつてトンビがくるのですよ」と言われる。

海を眺めているうちにバスの時間を忘れ私達は大きいそぎで、あわててバス停に、どうにか間にあいました。車窓より端島、夫婦岩を楽しみ本日「御崎道あるき観音講」は御開きとなりました。(長崎歴史文化協会 会員)

風信

○長崎の六月一日と言えば、本年度「長崎くんち」行事の幕あけ「小屋入りの日」であり、今年の年番町、踊町の人々は、それぞれ担当の「くんち行事」を開始される日である。

○本年は事務所のある桶屋町が年番町にあたり、「神輿のお供、お守り役」を勤めるので町内の本田会長より「良呂敷く」との事。

○六月四日、長崎県九条の会第九回学習会を長崎市民会館アマランスにて午後一時半より開催、井田事務局長を中心に各地区委員より行事報告等があるので出席下さいとの事。

○六月十日、時の記念日。各自で時間を大事にいたしましたしよとの事。

○翌十一日より古歴によれば「五月入り」とあった。

○六月十三日午前十時半より平成29年度本会役員会を十八銀行別館会議室にて開催決算報告、今年度事業計画の報告を行う。

○六月二十一日より二十六日まで、第十三回「長崎原爆と戦争展」を長崎市民会館にて開催するので、ご来場下さいとの事。

○先月五月十七日平成二十九年「第12回長崎検定一級合格」発表表彰式があった。本年度も一級合格者はわずか三名の方だけで、毎年の事ながら一級検定の合格は仲々むづかしいようです。○長崎本河内上、下水源地が国の重要文化財に指定された由、連絡あり。長崎の土木工学の事については、長崎大学名誉教授岡林隆敏先生の多年の研究があり、長崎水源地建造の事についても実に詳しい御説明を御聞きした事がある。機会があれば今一度あらためてご教示いただきたいと考えている。

長崎歴史文化協会研究室

TEL八二二一五四〇

十八銀行公会堂前出張所二F

